



札幌部会(第17回)

日時:	2017年5月20日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、濱地(道教大札幌校)、杉田(千葉県立津田沼高)、川瀬(札幌旭丘高)、山下(札幌市立簾舞中)、鈴木(石狩翔陽高)、吉川(千歳北陽高)、伊藤(千歳北陽高)、奈良(藤女子中高)、鈴木(留萌市立留萌中)、飯高(札幌市立真栄中)、山崎(北見北斗高)[順不同]

【内容要旨】

- 各自より、自己紹介が行われた。
- 野間先生より、年次大会及び、夏休み経済教室のプログラムの確定、名古屋部会での新科目「公共」の議論の内容について報告が行われた。
- 部会交流で東京部会から参加された杉田先生より、「経済の基礎概念から設計する有権者教育」について実践報告が行われた[授業の内容については、東京部会(第90回)の議事録を参照]。本授業の構想に至った問題意識は、「ポピュリズムを防ぐこと」にあり、授業のねらいは、投票に行かないことは世代間格差を生み出す要因であるため「投票に行きなさい」ということにある。そして、この授業の手段として、杉田先生が専門書やネットワークでの関わりを通して、学びを積み重ねた経済学の最新理論が用いられている。本実践の課題は、第一に、模擬投票からボルダールを導出することなど、資料の行間に隠れてしまっている実践の具体を「見える化」することであり、第二は、経済学の理論先行型になっているため、授業に流れができず現実との結びつきや、目標の公民的資質に結びつけることが弱くなってしまっていることである。これらの議論を踏まえ、東京部会や賢人会議(陰謀会議)で、さらに内容を深めたいとのことであった。
- 山崎より、「国鉄分割民営化とJR北海道の経営問題」についての授業案を示した。目指していることは、学びの内容を目の前の生徒にとって切実性の高い社会問題と結びつけ、生徒に主権者としての学習の動機、必要性を持たせることにある。授業デザインの方法は、学習の振り返りで書くワークシートで「生徒に説明する力をつける」というねらいから逆算したものである。授業の流れとして、まず、1983年の国鉄分割民営化に対する意見広告で示されている未来予想の路線図と、現在JR北海道で維持可能としている線区がほぼ一致することを見出させることから始まる。つぎに、JR北海道と他のJR6社の決算見通しから、なぜJR北海道は大幅な営業赤字なのかを導出させ、線区が維持できなくなると困る点を考えさせる。最後にこの状況を踏まえて、自分の意見を4象限から考えさせ、黒板に名前を記載して意見交換を進めさせるというものである。本授業の第一の課題は、政策判断は4象限よりも、費用便益分析から考えさせるのが一般的ではないかということ、第二の課題は、経済学の理論よりも、ニューマンら教科教育学の知見から授業を作っているため、社会問題を読み解く文法(経済概念)が無く、這い回ってしまう恐れがあることである。
また、北見北斗高校(今年度からSSH指定校)HPの校長挨拶が、珍しく「政治・経済」の授業風景のコメントから始まっていることを紹介するとともに、2月から3月の「オープン討論室」で新井先生が取り上げていた高

島善哉と長洲一二に関する論文の抜刷「社会諸科学の内容に基づく社会科の検討」(『中等社会科教育研究』第35号掲載)を配布し、内容を簡単に説明した。

5. 濱地先生より、中学校社会科向けに作成した「公共財ゲーム」についての実践報告が行われた。ゲームの内容は、1200万円でダムを建設するために、「A:1200万円、B:800万円、C:600万円、D:400万円、E:200万円」の所得に占める税金の「負担額」をグループで決めて、その所得に占める「割合」を求めるというものである。そしてこの理由を、①「みんなが平等に同じ額だけ負担する」、②「みんなが同じ割合で負担する」、③「税金を負担したあと、同じ所得になる」、④「所得が多い人の割合を高くする」の4つから選択させている。このゲームで目指すことは、「ただ乗りを防ぐこと」であり、最終的には、「公平な税金の負担とはどのような形か」を考えさせることを着地点にしている。本授業の課題として、第一は、理由の選択で②や④のような「割合」の帰結にしか行き着かないことにあり、第二は、公共財と税金制度の説明が上手くつながらないことにある。今後は本内容を発展させ、論文の形にまとめていく予定である旨が報告された。
6. 川瀬先生より、教材ネタとして、①SDGsの新聞記事(読売新聞2015.8.22の紹介記事及び朝日新聞2017.5.10からの連載記事より)、②学研アソシエの大堀精一氏(大学入試問題や小論文の分析で全国的に有名)から個人的に助言を受けた内容、③現金30万円の寄付先を話し合いで決定する取組(朝日新聞2017.4.8の事例紹介記事より)、④アリとキリギリスの創作劇を題材に、アリの国で集めた食糧の使い方や分け方をどのように決めるかについての実践事例(朝日新聞2017.4.28の事例紹介記事より)が紹介された。また、次期学習指導要領に向けて、「知識」の捉え方[①「事実的知識」(従前の知識)と、②「概念的知識」(聞恵→思恵→修恵の「智慧」に匹敵するもの)]について紹介された。
7. 伊藤先生より、北海道高等学校政治経済研究会(道政研)から発行を予定している『主権者教育実践事例集』(8月4日発行予定)の原稿の募集案内が行われた。

【懇親会・二次会の要旨】

※ 杉田先生の報告内容について、懇親会及び二次会に至るまで、学び手に根ざす札幌部会らしい議論が繰り広げられ、「学びの主語は理論を教える教師でなく、学び手の生徒ではないのか」、「生徒との対話や信頼関係をもとに授業を進めていく杉田先生の実践家としての良さが出ていないのではないのか」など、川瀬先生を中心に厳しくも温かい批判が続けられた。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:次回部会は、9月16日(土)に実施予定。時間は14:30-17:00。場所は、Sapporo55ビル5階キャリアバンクセミナールーム。